

げんき



こども病院
ニュースレター



カエル



平成 28 年(2016) 4 月 1 日

「移転に向けて準備中～患者搬送リハーサル1回目終了～」

副病院長 上谷 良行



当院は平成28年5月1日に現在の須磨の地から神戸ポートアイランドに移転することが決定しています。皆さんは病院の移転というイベントを身近で見られたことはありませんか？おそらくほとんどの方はないと思います。病院の移転に関してはいろいろ決め事があり、まず同じ名前の病院が2か所にあることは認められないので、4月30日で現病院はなくなり、5月1日から新しい病院がスタートすることになります。従って、患者の移送は何日もかけて行うことはできず1日で終わらないといけません。今現在入院中の250人すべての患者さんを1日で移動することは不可能です。患者さんの安全を第一に考えると、できるだけ移送する患者さんの数を減らすことが必要になりますので様々な工夫をして移送計画を立てています。

実際の救急車や模擬患者を使った患者搬送のリ

ハーサルも2回実施する予定で、1回目を2月20日に実施しました。当日は時折強風が吹き荒れ、横殴りの雨がうちつける最悪の天候でしたが、本番当日がそのような天候になるかもしれませんので、スタッフ全員真剣に取り組んでいました。今回の移転の大きな特徴は、移動距離が長いこと(片道30分はかかります)、人工呼吸器を必要とするような重症患者が多いことです。最近当院と同じような他県のこども病院や同じ県内の県立病院でも病院を移転する事例はありましたが、当院ほど長い距離で、重症患者の多い病院はありませんでした。それだけ難しい移転作業になると思います。患者さんの安全を第一に万全を期した準備をいたしますが、カルテや様々な医療機器も搬送しないといけませんので、外来診療も一定期間中止せざるを得ませんし、入院も別院して他の病院に対応をお願いしないといけません。場合によっては一時退院いただいたり、一定期間転院をお願いすることもあるかと思えます。皆様には多大なご迷惑をおかけするとは思いますが、新たな病院で皆様により快適に安全に医療を受けていただけますようにご協力をお願いしたいと思います。





電子カルテの導入にあたって

電子カルテ導入検討委員会 委員長
薩摩 眞一

5月の新病院移転と同時にいよいよ当院でも電子カルテが導入されます。県立病院の中ではしんがりを務めることとなりますが、システム構築にあたってはセキュリティーの担保を最重要と位置づけました。一方で現場での操作性の良さをめざして、こども病院独自のカスタマイズも加えましたので稼働が待ち遠しい限りです。

電子保存には遵守すべき3原則があり、真正性、見読性、保存性の確保がこれにあたります。あまり聞きなれない用語ですが、要は正当な権限を持つ人のみが明確な責任のもとにカルテ記載が可能で、その記述は第三者による見読性が担保され、法令等で定められた期間

物理的な劣化なく保存できるようにするという事です。つまりは診療行為の全てをいつでも開示可能な状態とし、決して患者さんが不利益を蒙らない医療をハードシステム面から構築しようという取り組みです。

さあ足元は整いました。次は職員全体で患者さんから笑顔がもらえるような治療をするだけです。



新病院での予約診察システムについて

医事企画課長 山上 美和

新病院では現病院と同様に救急以外の患者様には、原則予約診察をお願いしています。

初診予約は、原則紹介元の医療機関から診療情報提供書をFAXして予約していただくことになっております。

診療情報提供書の様式及び手続きの詳細は当院のホームページに掲載しておりますので、必要なときはご利用ください。

また、再診予約は、診察終了時に医師もしくは予約センター（一部はブロック受付）で予約をしていただくか、3ヶ月前の応当日以降については予約センターにお電話で再診予約をしていただくこととなります。

現病院では、再診予約の受付時間は、平日午後1時から午後4時（12月29日～1月3日を除く）まででしたが、新病院では、平日午前9

時から午後4時（12月29日～1月3日を除く）まで対応させていただくことにしております。

電話の受付時間を延長することで、少しでも患者様が予約取得しやすくなれば幸いです。

なお、5月2日(月)は移転作業のため、診察予約の電話受付を休止させていただきますので、ご了承くださいませようお願いします。





小児の目の病気と検査



眼科部長 野村 耕治

小児の目の病気の多くが弱視や斜視といった視機能の発達が遅れている状態です。それぞれ、屈折異常や眼振などで視力の発達が遅れている、両目の視線が見る対象に集中せず立体感覚などの両眼視機能が障害される病状です。原因や異常の程度を正しく評価し、眼鏡の装用や手術による矯正を行います。

患者さんの数は少ないものの白内障や緑内障、網膜疾患など成人に多い病気もあります。疾患ごと小児に固有の手術適応や術式をもって適切に治療することが大切です。

小児は目に異常が生じて、訴えが遅れたり曖昧であったりすることが多いため、病気の発見や診断が遅れる傾向にあります。特に片眼の異常では全く症状を訴えず、生活態度からも周囲の人間に気づかれることなく過ごす結果、深刻な病状に至ってしまう場合も少なくありません。小さな患児の場合、視力や視野、眼圧といった検査が難しいこともあります。当科では小児の検査に特化した検査機器を備え、視覚発達や異常の有無を正しく評価出来る様にしています。



写真1：ランドルト環による視力検査。



写真3：縮指標を用いた他覚的検査。乳児期より視力の評価が可能。



写真2：顕微鏡検査（斜視の評価）の様子。

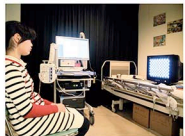


写真4：視覚誘発脳電位検査。脳波を検出して視力などを他覚的に評価する。



こども病院での思い出

元看護部次長 河野 恵

こども病院の移転がいよいよ間近になってきましたね。

在職中の思い出をたどると、入院中のこどもさんたちへのケアや遊びが浮かびます。

病棟スタッフはこどもたちを大切に思い、日常の生活ケアをいろいろ工夫していました。女子の髪を結ぶ技術ときたら、本職顔負けに髪飾りを上手に使い、高度なテクニックを駆使して結い上げていました。中でも特に上手だったのは男性看護士のN君です。お母様が持参された髪飾りを使い、お子さんの表情を見て「今日の髪型」をイメージし、毎日違う髪型にしてとてかわいく結うので、病棟の「スーパー美容師」と呼んでいました。

病棟には、長く在院するこどもさんもいました。室内だけの生活になりがちで、移動距離が少なく、遊びも限られたものになるため、できるだけいろいろな遊びを経験してもらおうとスタッフはいろいろな計画していました。

その一つがペラランダでのプール遊びです。温水を入れた大きなビニールプールを準備し、周りにすだれや夏の風物を書いて南風の雰囲気作りをしました。お母様たちには事前にプール遊びのお知らせをして参加を呼びかけました。「この子、生まれて初めて水着を着るのよ」と言いながら、買って来たかわいい水着を着せて一緒にプール遊びをしました。親子で一緒に遊んだ思い出の一つになったと思います。

もう一つは、院外への遠足です。呼吸器をつけていたり、移動がままならないお子さんたちを、外の空気が音、風や光を感じてもらいたいと遠足を計画しました。お母様方と当日の受け持ち看護師以外のスタッフ達がボランティアで参加し、この計画を知った神戸市立友生看護学校(現:神戸市立友生支援学校)の先生方(当院の訪問学級の先生方)も参加を申し出てくださり、一緒に隣の公園にお出かけしました。滞在はわずかな時間でしたが、お子さんたちはとても満足そうな良い表情で過ごせたと聞きました。参加した大人はもちろん、病棟スタッフも皆、満足感、達成感を覚えたものでした。遠足が実現できたのは、こどもを思う多くの人々の善意のおかげでした。課題も多く、遠足はこの一度きりでした。

新しい病院には、こどもさんたちの療養生活が楽しくなるような仕掛けがあり、好奇心を満足させ、成長の糧になるような遊びの環境が充実されることを願っています。



Concept コンセプト

● **基本理念** 周産期・小児医療の総合施設として、母とこどもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になってこどもたちの健やかな成長を目指します。

● 基本方針

1. 患者の権利を尊重した医療の実現
2. 安全・安心と信頼の医療の遂行
3. 高度に専門化されたチーム医療の推進
4. 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
5. 親とこどもが一体となった治療の推進
6. こどもへの愛とまことに誇られた医療人の育成
7. 医療ボランティアとの協働による患者サービスの向上
8. 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化



編集後記

寒気の差が激しかった冬が過ぎ、ようやく春らしくなってきました。高倉山の風景も、もうすぐ見納め。次号からは新しくなった病院よりお届けします。どうぞお楽しみに!!

編集委員長: 橋本ひとみ

編集委員: 大津雅秀 大西美樹
 酒田米妃 山本正子
 沼田素作 坂本有恵
 廣岡宏史 福本宏文

本誌に関するご感想・ご要望・ご質問はこちらまで



兵庫県立こども病院

周産期医療センター 小児救命医療センター
 小児がん医療センター 小児心臓センター

〒654-0031 神戸市須磨区高倉台1丁目1-1
 TEL 078-732-6961
 FAX 078-732-0910 (総機庫)
 FAX 078-732-6980 (予約センター)
 URL <http://www.hyogo-kodomo-hp.com/>
 E-mail: info_kchilp@prof.hyogo.jp